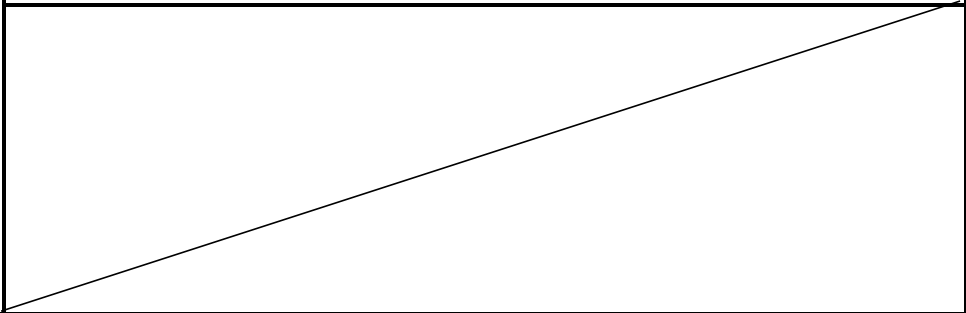


◎第8回懇談会における意見等要旨及び対応等

項目	意見等要旨	懇談会での回答および対応案等
産業振興分野	<p><b>○農業分野における労働力の確保について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・酪農におけるヘルパー(従業員)を確保する体制が無いほか、畑作(野菜)においても働き手として、東京農大の学生さんがやっている部分があるが、卒業により地域から離れるため、労働力を確保する上で課題がある。</li> <li>・農業の場合は働く期間が限定されるため敬遠される場合もあり、働く場所、安定的な雇用を確保するために、人材派遣業のような機関や会社を行政も含めてできるかどうかは課題であるが、そのあたりが未整備の実情が心配である。</li> </ul> <p>(乾委員:オホーツク網走農業協同組合)</p>	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・移住フェアでの聞き取りなどでも、働く場所の確保が非常に重要である。</li> <li>・農業関係についても、職業として提案しながら、定住に向けたアピールをして行く必要があると考えている。</li> <li>・原課へ情報提供する。</li> <li>・労働力確保に関する仕組みづくりについて検討。</li> </ul>
	網走市の考え方	大空町の考え方
	<p><b>【農政課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ゆとりある酪農経営を安定的に継続していくためには、酪農ヘルパーの確保は重要なことであることから、市はこれまでも利用組合に対する助成支援を行ってきたところであるが、今後とも関係団体と連携して対策を検討していく必要がある。</li> <li>・また、農業従事者の高齢化や担い手が不足している中で、農家の労力負担軽減のため、コントラクター組織の整備など労働力確保に向けた仕組みづくりに向けて、農協など関係団体と検討していきたいと考えている。</li> </ul>	<p><b>【産業課・産業建設課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・農業分野における労働力確保については、JA等関係機関と協議しながら仕組みづくりについて検討していきたい。</li> </ul>
	意見等要旨	懇談会での回答および対応案等
	<p><b>○産業振興について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域として欠けている点を考慮すると産業の確立が必要であるが、札幌ではアクサ生命の東京本社機能の一部移転という話が出ており、小清水町ではせんべい工場が来ているように企業誘致も一つの方法であるが、この地域は一次産業がベースとしてあり、多くの方が関わりを持っている現状がある。</li> <li>・高齢化が進む中、それ以外の産業について仕掛けていかないと、今後は間違いなく人口減少が進み、さらに若者も減ってしまうと考えており、行政としてどうしていくべきかが重要である。</li> </ul> <p>(中山委員:めまんべつ観光協会)</p>	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・一次産業のポテンシャルが高いことから、製品としての付加価値向上を検討したいと考えており、その中で企業誘致を含め雇用の場を確保していきたい。</li> <li>・6次化に対する支援の取組みが増えているように、地域の豊かな素材を活かしていくことが必要であるほか、企業誘致に関する補助制度も重要と考えている。</li> <li>・原課へ情報提供する。</li> </ul>
	網走市の考え方	大空町の考え方
	<p><b>【商工労働課・農政課・水産漁港課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域経済の活性化と雇用の場の創出を図ることを目的として、事業者が取り組む新商品の開発等に対して支援をしてきており、これまでも多くの新商品が製造・販売されているほか、平成25年度には、市内で新規に飲食店や小売業を開業する方を対象とした補助制度を創設するなど、起業化を支援する取り組みも進めている。またこれまでも製造業をはじめ各種の企業進出があるが、今後も引き続き地域資源を活用した企業誘致を積極的に取り組んでいく。</li> <li>・農業及び農産関連加工業は、基幹産業のひとつとして地域経済に大きな役割を果たしてきたが、これまでの原料供給的機能から、産地としての強みを活かし、農業のポテンシャルを付加価値創出に結び付けていく産業政策は必要であると考えており、例えば、管内産麦の約8割が集約される港町の小麦関連施設の機能を活かし、「地元産小麦」を使用した第2次(製造)・3次産業(販売)に繋がる付加価値向上に向けた取り組みなどについても検討していく。</li> <li>・今後も引き続き、水環境の保全や漁場造成等による水産資源の保全、加工製品の付加価値向上や販路拡大など水産業の振興に取り組む。また、そのことが、雇用の場の確保や拡大に繋がっていくと考えている。</li> </ul>	<p><b>【総務課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・企業誘致は、産業振興や雇用機会の創出などの地域発展のために重要と認識しており、大空町企業促進条例により、町内に事業所を新・増設する企業への助成措置を行っている。</li> </ul>

◎第8回懇談会における意見等要旨及び対応等

項目	意見等要旨	懇談会での回答および対応案等
産業振興分野	<p><b>○大空町関係「観光一般事務費」について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・他の事業との兼ね合いもあるが、計画額が大幅に変動している点について問題は無いかな？</li> <li>・観光協会としては、運営に関わる部分なので対応をお願いしたい。</li> </ul> <p>(中山委員:めまんべつ観光協会)</p>	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・運営方式の変更などは可能性としてあるが、縮小ということではないと考えている。</li> <li>・状況を確認する。</li> </ul>
	<p>網走市の考え方</p>	<p>大空町の考え方</p>
		<p><b>【産業課・産業建設課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・観光振興一般事務費については、これまで国の緊急雇用創出事業により増加していたところであるが、今後予定がないことから減少しているもの。</li> <li>・団体の運営に関しては、ビジョン外の義務的経費として運営に支障がない様に予算計上を予定している。</li> </ul>
項目	意見等要旨	懇談会での回答および対応案等
福祉分野	<p><b>○高齢化進展と生活困窮者増加について</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日常生活自立支援事業、成年後見人制度の活用にあたっての組織整備、生活困窮者自立支援などについて、今後、国で事業推進を図られるのが、効率的に事業実施するうえで、広域での取り組みもあると思われるので、事業としてビジョンに掲載する可能性もあると考える。</li> <li>・核家族化が進む中、団塊の世代が65歳を迎えるため、大きな課題である。</li> </ul> <p>(本間典委員:網走市社会福祉協議会)</p>	<p>(事務局)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者に対するジョブトレーナーを通じた就労支援を事業として検討している。</li> <li>・見守りネット事業を通じて、情報収集やコミュニケーションを図っている。</li> <li>・原課へ情報提供する。</li> </ul>
	<p>網走市の考え方</p>	<p>大空町の考え方</p>
	<p><b>【社会福祉課・介護福祉課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者自立支援(生活保護に至らない生活(環境)困窮者)については、平成27年度より各自治体は事業実施が義務化されることから、平成26年度後期にモデル(準備)事業として「自立支援相談事業」(自立生活のための相談から自立へのプラン作成と困窮からの脱却)を実施する予定である。</li> <li>・成年後見人については、広域での取組みを検討するにあたり、現状、実施機関が組織されていないことが課題である。</li> </ul>	<p><b>【福祉課・住民福祉課】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・生活困窮者自立支援法については、対象自治体が「福祉事務所設置自治体」となっており、大空町では福祉事務所を設置していない状況。</li> </ul>

◎第8回懇談会における意見等要旨及び対応等

項目	意見等要旨	懇談会での回答および対応案等
福祉分野	<p><b>○日常生活自立支援事業について</b>                      ・支援員に対する研修を実施しているが、実際の運用にあたって、支援員を登録する制度やNPO法人などについてもビジョンにあっても良いのでは？</p> <p>(高橋委員:大空町社会福祉協議会)</p> <p style="text-align: center;">網走市の考え方</p> <p><b>【介護福祉課】</b>                      ・生活支援を担う支援員の支援体制の養成・強化を図ることが必要であり、広域での取組についての可否検討が今後の課題と考えている。</p>	<p>(事務局)                      ・高齢者福祉計画、介護保険計画の改定・策定段階での整理が必要であり、広域での取組みが効果的であるものについては、定住圏の各組み利用が可能と考える。</p> <p>・原課へ情報提供する。</p> <p style="text-align: center;">大空町の考え方</p> <p><b>【福祉課・住民福祉課】</b>                      ・成年後見制度については、今後、認知の低下等による制度の利用希望が増えて来ることが予想されており、本町においては、平成24年度6名の方が「市民後見人養成講座」を修了している。将来的には、「成年後見センター等」を設置し、制度の周知を図りつつ、市民後見人の確保、養成講座修了者の追加講座や勉強会の開催が必要と考えていることから、網走市との共同開催等を協議していきたいと考えている。</p>
項目	意見等要旨	懇談会での回答および対応案等
その他	<p><b>○藻琴駅におけるバスの乗継関係について</b>                      ・民間のバス事業者は路線やダイヤなどを検討しているが、小中学生向けのスクールバスの活用を含め、今後の対応を検討するに当たり、学校・生徒側の意向を情報としてもらうべきでは？</p> <p>(久田委員:網走市社会教育委員)</p> <p style="text-align: center;">網走市の考え方</p> <p><b>【確認事項】</b>                      ・スクールバスについては、地域住民も乗車可能。ただし、民間事業者のバス運行区間と重複する部分については料金が発生する。                      ・ルートおよび運行時間帯については、小中学生の送迎が基本となるが、利便性向上のため高校生については、年度当初に区会を通じて周知の上、スクールバス利用を把握している。(民間事業者バス運行区間は有償)                      ・高校生のスクールバス利用は、網走市郊外地区から網走市内への高校通学の際に利用しているケースが多い。(北浜駅・藻琴駅で乗り換え)                      ・東藻琴高校-藻琴駅間については、高校の無料送迎バスあり。</p>	<p>(事務局)                      ・原則としてスクールバスは、小中学生の登下校時間に合わせた時間帯となっており、高校生は民間事業者の路線が無い場合に同乗が可能との取り扱い。</p> <p>・状況を確認する。</p> <p style="text-align: center;">大空町の考え方</p> <p><b>【地域振興課・生涯学習課】</b>                      ・一般住民及び高校生については、「東藻琴市街地～藻琴駅～網走駅間」は民間事業者が1日に4便往復をしており乗車は可能。                      ・東藻琴高校生については、網走市からの高校生は民間事業者のバスに乗って藻琴駅まで来れば、無料送迎バス(大空町運行)が東藻琴高校まで送迎する。</p>

◎第8回懇談会における意見等要旨及び対応等

項目	意見等要旨	懇談会での回答および対応案等
その他	<p><b>○定住自立圏の成果について</b>                      ・一般には制度の趣旨が分からないため、定住自立圏自体の意義が薄れているような気がするが、医療分野などで良い結果も出ていることも事実であり、そうした部分をきちんとアピールしていくことが必要と感じる。</p> <p>(深川委員:東藻琴観光協会)</p>	<p>(事務局)                      ・何のための事業、制度であるかという部分は常に確認が必要であり、そのためにも地域住民から理解を得るために情報発信、アピールが必要であると考えており、今後の課題である。</p>
	意見等要旨	懇談会での回答および対応案等
	<p><b>○定住自立圏の趣旨について</b>                      ・共生ビジョンの内容については、細かい部分が多すぎるように思う、人口減少に対応するために何か一緒にやるための話し合いということを考えると、合併を念頭に話をした方が良いのではないか。</p> <p>(乾委員:オホーツク網走農業協同組合)</p>	<p>(事務局)                      ・合併については、現時点では検討していない。                      ・ただし、単独の自治体で行政サービスを提供していくことは限界があることから、定住自立圏という制度を活用して連携を強化することで、サービスの維持・充実と効率化を図っていくためのもと考えている。</p>
	意見等要旨	懇談会での回答および対応案等
	<p><b>○定住自立圏の今後の方向性と成果について</b>                      ・定住自立圏自体は今後も推進されていくものか？                      ・成果として、一般の方も分かるような目に見える形が望ましい。</p> <p>(久田委員:網走市社会教育委員)</p>	<p>(事務局)                      ・定住自立圏については、今後も推進されていく見込み。                      ・成果としては、救急医療の分野と生活路線バスの取組みが挙げられる。                      ・現在は施設利用料金のフラット化を検討している状況。</p> <p>・広域での取り組みは、定住圏の枠よりも広い枠組みで実施されているケースもあり、必ずしも定住圏の取組みとなっていないものもある。</p>